

## 沖永良部島サクダマタ古墓群7号墓出土人骨の放射性炭素年代測定

Radiocarbon Dating of Human Skeletal Remains from No7 Tomb  
Part of Sakudamata Old Tombs, Okinoerabu Island

宮城幸也\* ・ 竹中正巳\*\*  
Koya Miyagi Masami Takenaka

\*鹿児島県知名町教育委員会 \*\*鹿児島女子短期大学

鹿児島県大島郡知名町大津勤に所在するサクダマタ古墓群7号墓は、炭素14年代測定法（AMS-14C法）による出土人骨の年代測定を行った結果、縄文時代晩期中葉頃と11世紀～12世紀頃（中世期）の少なくとも2つの時期に再葬墓として使用されたことがわかった。カムイヤキ小壺の破片も出土しており、当該墓は出土した人骨と遺物の両面から中世期に営まれたことがわかる。琉球列島で近世・近代に盛行した岩陰風葬墓の奄美群島における現段階の最古の事例となる。

**Key words** : サクダマタ古墓群、人骨、放射性炭素年代測定、カムイヤキ、沖永良部島  
Sakudamata old tombs, human skeletal remains, radiocarbon dating, Kamuiyaki ware,  
Okinoerabu island

### 1. はじめに

サクダマタ古墓群は、鹿児島県大島郡知名町大津勤に所在する岩陰墓である。2020年、知名町教育委員会による分布調査で7基が確認された。竹中正巳教授（鹿児島女子短期大学）、具志堅 亮 氏（天城町教育委員会）の協力を得て知名町教育委員会による試掘調査が実施された。

分布調査で見つかった7基の内、1号墓～6号墓では蔵骨器や供献陶磁器などの遺物は検出されなかった。しかし、沖永良部島における岩陰利用の古墓（風葬墓）は近世～近代の時期に集中しており（知名町教委, 2019）、1号墓～6号墓もこの時期に使われたと想定された。7号墓の岩陰内表土上に積まれた礫群内部を観察したところ、カムイヤキ小片と人骨片が数点確認された（宮城・竹中, 2021）。カムイヤキは、中世期の徳之島で製作された陶器で、特に琉球列島で広く流通した。カムイヤキの確認により、7号墓は中世期に使われた可能性が出てきたことから試掘調査が行われた。この試掘調査により、11世紀～12世紀に造られたと考えられるカムイヤキ小壺片と人骨片が同じ土層中から出土し、中世期に使われた岩陰墓である可能性が一段と高まった（宮城・竹中, 2021）。

沖永良部島では、世之主の墓（和泊町教委, 2019）や屋者琉球式墳墓など（知名町教委, 2019）建物化した古墓が存在するが、その築造時期は解明されていない。また、その他の奄美群島地域での石灰岩古墓の築造についても未確

定な部分が多い。そのため、サクダマタ古墓群7号墓出土人骨の年代測定が待たれた。

今回、知名町教育委員会がカムイヤキ片と同じ土層から出土した人骨片について、放射性炭素年代測定を行ったので、その結果を報告する。

### 2. 資料および方法

サクダマタ古墳群7号墓の墓域内に設定した1-2トレンチ1層出土の人骨片の中から、3点（試料番号No.4・5・8）を選んだ。これらの資料は、11世紀～12世紀と考えられるカムイヤキ片と同じ土層から出土した人骨片や歯である（図1）。

試料番号No.4は下顎左第1小白歯である。試料番号No.5は、土層中の下部から検出された右手第5指の基節骨である。近位端は癒合しておらず、遠位端の癒合は完了している。試料番号No.8は右寛骨片である。カムイヤキ破片（口縁部）の直下にあった。人骨片からコラーゲン抽出を行い、加速器質量分析計による炭素14年代測定法（AMS-14C法）による年代測定を、知名町教育委員会が加速器分析研究所に委託して実施した。

### 3. 観察結果および考察

炭素14年代測定法（AMS-14C法）による年代測定結果を表1・2に示す。年代測定を行った結果、試料番号

No.5は11世紀～12世紀頃の年代値が示された。また、試料番号 No.4と No.8は縄文時代晩期中葉頃の年代値が示された。このことから、サクダマタ古墓群7号墓は縄文時代晩期中葉頃と11世紀～12世紀頃（中世期）の少なくとも2つの時期に再葬墓として使用されたことがわかった。

試料番号 No.5の人骨片の年代は、同じ土層出土のカムイヤキ小壺片の製作年代と整合する。この小壺に接合可能な破片は他にも出土しており、カムイヤキ小壺片は中世期、古墓が使用された際の副葬品と考えてよいことになる。

琉球列島における石灰岩岩陰を利用した古墓（風葬墓）の造営は、近世～近代の時期に盛行する。沖永良部島の岩陰墓で、これまで確実に中世期と判断できるものはなかった。サクダマタ古墓群7号墓は、出土人骨と遺物の両面から、中世期に使われた初めての例であり、現在のところ、奄美群島でも岩陰風葬墓として最古の事例となる。沖永良部島をはじめ琉球列島の葬墓制の変遷を検討していく上で、重要な示唆を与える石灰岩岩陰墓である。

#### 4. 参考文献

知名町教育委員会（2019）知名町の古墓1. 知名町埋蔵文化財発掘調査報告書（14）.

宮城幸也・竹中正巳（2021）サクダマタ古墓群試掘調査速報。廣友会誌第10号：129-134.

和泊町教育委員会（2019）和泊町の古墓1. 和泊町埋蔵文化財発掘調査報告書（8）.

（2021年12月22日 受領／2022年1月6日 受理）



図1 サクダマタ古墓群7号墓から出土した人骨とカムイヤキ小壺片

表1 サクダマタ古墓群7号墓出土人骨および歯の年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定機関 番号	試料 番号	試料の部位	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (%) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
					Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA- 201573	No.4	サクダマタ古墓群7号墓 下顎左第1小臼歯	CoEx	-16.70 ± 0.20	2,640 ± 30	72.02 ± 0.23
IAAA- 201574	No.5	サクダマタ古墓群7号墓 (下層) 基節骨 (右手第5指)	CoEx	-15.68 ± 0.24	930 ± 20	89.02 ± 0.25
IAAA- 201575	No.8	サクダマタ古墓群7号墓 右寛骨片	CoEx	-18.55 ± 0.22	2,630 ± 20	72.09 ± 0.22

表2 サクダマタ古墓群7号墓出土人骨および歯の年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、暦年較正用14C年代、較正年代)

測定機関 番号	試料 番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
		Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA- 201573	No.4	2,500 ± 30	73.25 ± 0.23	2,636 ± 25	813calBC - 793calBC (68.3%)	830calBC - 779calBC (95.4%)
IAAA- 201574	No.5	780 ± 20	90.73 ± 0.25	934 ± 22	1045calAD - 1085calAD (30.9%) 1093calAD - 1104calAD ( 8.3%) 1121calAD - 1158calAD (29.1%)	1036calAD - 1163calAD (95.4%)
IAAA- 201575	No.8	2,520 ± 20	73.05 ± 0.22	2,629 ± 24	810calBC - 792calBC (68.3%)	822calBC - 779calBC (95.4%)